

次回（2026年度）札幌国際芸術祭 - SIAF - の方向性

1 SIAF2024の検証

●実施概要

会期	2024年1月20日～2月25日（37日間） 初の冬開催
ディレクター	小川 秀明 アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ共同代表
テーマ	LAST SNOW - 雪をテーマに、アートとテクノロジーを通じて100年後の未来を想起 -
コンセプト	3つのC 創造エンジン - Engine for Creativity - 文化インフラ - Cultural Infrastructure - 市民参加 - Citizen Participation -
会場	未来劇場（東1丁目劇場施設） / 札幌文化芸術交流センター SCARTS 北海道立近代美術館 / 札幌芸術の森美術館 / モエレ沼公園 / さっぽろ雪まつり大通2丁目会場 など

●数字で見る主な成果 ～ 初期アウトカム ～

SIAFの市民浸透

SIAFの市民認知度

令和2年度 令和5年度
33.2% → 50.7%
※文化芸術意識調査より

来場者の高い満足度

「とても良い」「良い」の計
96.9%
※5段階評価

市民来場者の増

来場者における市民割合
67.0% (+6.3pt)
※カッコ内はSIAF2017比較

SIAFのプレゼンス向上

来場者数の増加
各会場・イベントの合計
356,784人
※1会場1日あたりで1.5倍
(SIAF2017比較)

市内芸術関係者の集結

公募・連携プログラムの参加
計28件

企業協働による多方面への展開

イニシアティブパートナー
計8社

2 次回SIAFの方向性と目指す成果

●方向性

① SIAF2024までの重要な取り組みをアップデート

より広く・より深い市民浸透

- 「伝わりやすい広報」を展開し、芸術祭の市民認知度向上に向けて幅広い市民訴求を実施
- 「SIAFスクール」（市民参加型普及事業）をアップデート
- 「ユニバーサルデザイン」を拡充し、誰もが鑑賞・参加・体験できる仕組みを構築

札幌の独自性の打ち出し強化

- 「引き続き冬季開催」とし、札幌の地域特性や文化を生かし、土地の魅力の発信・再発見や他都市との差別化を図る
- 「メディアアーツ都市」として、海外都市と連携したプログラムの実施など国際的なアプローチを強化

② 持続可能な仕組みの構築

持続可能なエコシステムの構築

- 「地元の教育機関との連携」で、文化インフラを拡張
- 「企業連携」を通して事業規模を拡張し、実験的取組を実践
- 地場のアート・クリエイティブ関係者を巻き込むことで、「地元に経験」を残し、持続的な人的リソースを確保

●目指す成果 ～ 中間アウトカム ～

文化芸術の市民浸透

SIAFの市民浸透が広がることで、それを契機に市民に現代アートやメディアアートなどの文化芸術に対する理解や関心が深まっていくことを目指す

アーティストの活躍の場の拡大

芸術祭単体としての展示やイベントに加え、公募や連携プログラムなど多彩な取組を実施することで、アーティストが活躍できる場を拡大していく

文化芸術を支える人材や周辺産業の増加

芸術祭を契機として、様々な企業や、地元団体・人材との連携を拡充し、札幌の文化芸術を支える文化インフラとして定着させていく

クリエイティブ人材の活性化

芸術祭の国内外のプレゼンスを高めていくことで、市外からクリエイティブ人材が札幌を訪れ、芸術祭をハブとして、地元人材との交流を活性化させていく

3 次回SIAFの開催方針

●実施概要（予定）

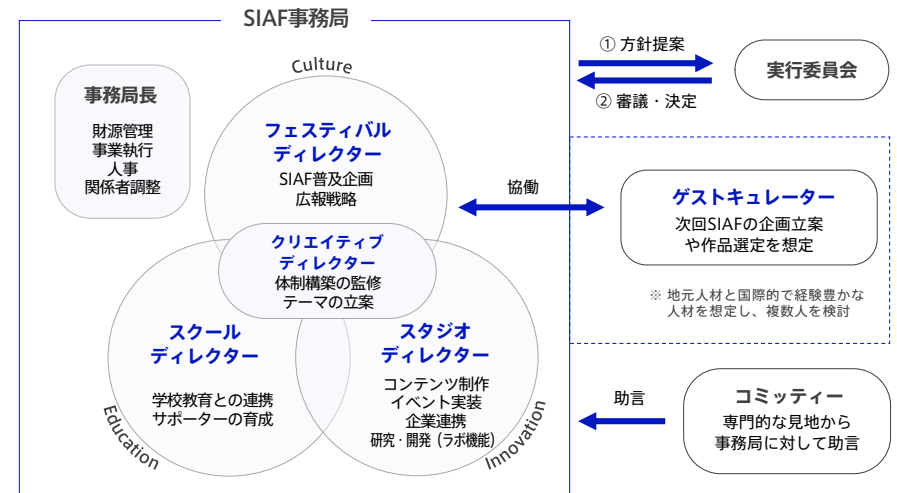
名称	札幌国際芸術祭2027 -SIAF2027-
会期	2027年1～2月（30～40日間程度）
ディレクター	チームディレクター制（下図のとおり）
テーマ・コンセプト	未定（社会課題に連動したわかりやすい内容）
会場	まちなか・郊外・冬を生かした会場を設定

引き続き
冬開催

札幌 Sapporo International
国際芸術祭 Art Festival
- SIAF2027 -

●次回SIAFの体制案

- 10年間積み上げてきた経験を基に事務局を強化するため、各セクションに“ディレクター”を配置
- 体制構築の監修としてSIAF2024ディレクター“小川氏を事務局のクリエイティブディレクター”に
- 新鮮さと変化を加えるために“ゲストキュレーター”を迎え入れ、事務局と協働して次回SIAFを構築



次回（2026年度）札幌国際芸術祭 - SIAF - ディレクターの候補者選定

サイアフ

1 ディレクターの候補者選定

札幌国際芸術祭芸術監督規程

第3条（候補者選定）

芸術監督は、委員会事務局が札幌国際芸術祭コミッティーと協議の上、候補者を選定し、委員会に諮る

2 ディレクターの役割

札幌国際芸術祭芸術監督規程

第2条（役割）

芸術監督は、委員会が定めたSIAFの方針に基づき、SIAFの企画立案及び監修を担う

2 前項の実施にあたっては、委員会事務局と協力及び確認を行いながら進めるものとする

3 ディレクター候補者

クリエイティブディレクター 小川 秀明 / Hideaki Ogawa

略歴

オーストリア・リンツ市を拠点とする世界的な文化・芸術機関であるアルスエレクトロニカの研究開発部門の共同代表。SIAF2024ではディレクターを務めた。



主な役割

SIAF事務局の新体制構築に向けた監修
次回SIAFのテーマ・コンセプトの企画方針の提示・監修
国際的展開にかかる企画方針の提示・監修、企業連携の実施サポート、広報戦略への助言

選考理由

同氏は、SIAF2024ディレクターとして、「Last Snow」というテーマのもと、市民浸透や芸術祭のプレゼンス向上に寄与しただけでなく、フェス・スクール・スタジオを軸とした事務局体制案の基盤を築いた。
さらに、アルスエレクトロニカでの活動による国際的で幅広いネットワークや企業・行政との連携について豊富な経験を有しており、**SIAF事務局の新体制構築に加え、芸術祭の将来的な持続可能性を高める国際性の強化や事業規模を維持拡大していくことが期待できることから、選考に至った。**

スクールディレクター 漆 崇博 / Takahiro Urushi

略歴

一般社団法人AISプランニング代表理事。北海道内でのアーティスト・イン・スクール事業をはじめとしたアートと社会をつなぐ担い手として活動。また、SIAF2014から札幌国際芸術祭に関わり、現在は札幌国際芸術祭事務局マネージャーとして、SIAFスクール事業を担当。



主な役割

SIAFの継続的な市民浸透に関する方針の提示・監修
学校教育との連携に関する企画方針の提示・監修
文化芸術に関する生涯学習プログラムの企画方針の提示・監修

選考理由

同氏は、初回のSIAF2014から事務局マネージャーとして参画し、特にSIAF2024ではSIAFスクール事業の担当として、自身が長年培ってきた経験を生かして市内の小中学校への出前授業や市民を中心としたボランティアプログラムを確立するなど、SIAFへの市民参加の促進に大きく貢献してきた。
SIAFスクールの取り組みは、同氏を中心に現在も継続的に実施しており、**SIAFを契機とした文化芸術の市民訴求の推進や、これまでのノウハウを生かしたSIAFスクール事業の発展的な拡充が期待できることから、選考に至った。**

フェスティバルディレクター 細川 麻沙美 / Asami Hosokawa

略歴

テレビ局での展覧会制作・運営や、企業・展示業務を中心としたフェスティバル事務局への従事を経て、SIAF2014から札幌国際芸術祭に関わり、現在は札幌国際芸術祭実行委員会事務局統括マネージャー。



主な役割

次回SIAF開催の基本方針の提示・監修、
SIAFの普及に関する企画方針の提示・監修
広報戦略の企画方針の監修

選考理由

同氏は、学芸員資格を生かし、大型美術展の企画・運営や、文化庁メディア芸術祭事務局での広報業務などを通じて、メディアアート分野で豊富な知見を蓄積するとともに、人脈を構築してきた。
また、初回のSIAF2014から事務局マネージャーとして参画し、SIAF2017以降は全体統括業務を担ってきた。特にSIAF2024では、メイン会場のコーディネートや事業計画の構築を主導するなど、卓越した実践力と企画力を発揮している。これらの実績を踏まえ、**SIAFの基本方針に基づいた企画立案やクオリティコントロールが期待できることから、選考に至った。**

スタジオディレクター 丸田 知明 / Tomoaki Maruta

略歴

丸田知明建築設計事務所の代表。SIAF2017からアーキテクト（建築設計）スタッフとして関わり、各会場の図面制作や現場監理、作品制作にかかるサポート等を担当。あいちトリエンナーレ2016及び2019、国際芸術祭あいち2022においても同様の役割を担っている。



主な役割

コンテンツ制作及びイベントの実装に関する監修（地元人材の育成を含む）
企業連携及び研究・開発に関する方針の提示・監修

選考理由

同氏は、SIAF2017から事務局アーキテクトスタッフとして参画する一方、あいちトリエンナーレ2016から国際芸術祭あいち2022においても、同様の役割を担い、国際的なアート展における制作現場の豊富な経験を有している。
コンテンツ設計から施工・テクニカル対応を含む現場業務に精通しており、「スタジオディレクター」の主要な役割である芸術祭や関連イベントの実装を担ってきたことや、地元人材や企業との関係性も幅広く築いており、**コンテンツ設計の統括にとどまらず、SIAFを通じた地元人材の育成や外部との連携強化が期待できることから、選考に至った。**